

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	山形大学
事 業 名	ワンストップ臨床研究サポートセンターによる生活習慣病ゲノムコホート研究の推進と臨床研究医養成事業
事 業 責 任 者	山形大学医学部長 永瀬 智
事 業 の 概 要	
がん、心血管疾患、糖尿病などの生活習慣病は日本人の死因の半数を占め、生活の質に大きく影響している。山形大学はこれまで 20 年にわたる地域住民対象ゲノムコホート研究を行い、生活習慣病の発症進行に関する成果を発信し地域に還元してきた。今後、更なる研究の効率的発展、臨床研究医増加のため、1) 臨床研究全行程が 1 か所で完結する「ワンストップ臨床研究サポートセンター」の新設、2) 学生の SA、TA、RA による屋根瓦式教育研究サポートシステムの構築、3) コホート研究・バイオバンク・アプリ介入研究のデータベース閲覧システムの活用による他機関へのデータ提供、4) YU-MAI センターと関連病院のネットワークによる臨床実習レベル向上を行う。これらの取り組みにより、教員の教育研究時間増加、臨床研究医育成、研究力強化を実現し、国内外の研究教育機関と連携した最先端の生活習慣病ゲノムコホート拠点となる。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○生活習慣病関連の国内国際多施設共同研究コンソーシアムに参画に加え、ゲノムコホート、バイオバンク生体試料に関する研究実績も有している。 ○学外臨床実習協力病院の確保、増加や協力病院における CC-EPOC の導入数をアウトカム指標に用いる計画は、大学病院の負担軽減を反映することになり優れている。また、CC-EPOC の導入による事務業務の増加への人的なサポートがなされている点が評価できる。 ○学外の臨床実習研修病院を最終的に 14 機関にすることを目標とし、学外医師用の遠隔での FD の講師として、医学教育を専門とする非常勤講師とサポートセンターが雇用する TA や RA が関与するという計画が具体的である。 ○学外の臨床実習病院では基本的な医行為の経験、大学病院では高度な内容の指導と役割分担することがタスクシェアに繋がるというアイデアも優れている。 ○学外からの相談の対応窓口を一本化し、地域住民コーホートやバイオバンク生体試料のデータベースを閲覧、利用、介入研究と順次発展させる計画は優れている。 ○60 人の SA、TA、RA による式教育・研究サポートが結果的に教員の負担軽減に繋がり、本来の指導に専念できることでより高いレベルの指導が可能となるという点は、実現可能性も高いと感じる。 ○山形県高域連携臨床実習協定に基づく連携を基盤として Well-Being センターやサポートセンター、YU-MAI センターなど独自の仕組みを確立することになっている。 ○実績の延長線上に新しいシステムが構築されている点が優れている。 ○事業の効率化と外部資金の獲得の増加により継続可能としており、方向性としては望ましい。 ○サポートセンター、CC-EPOC の拡大を含めた学外臨床実習施設のシステム、SA、TA、RA の確保と教育などプロジェクトに必要な事項が経年的に落とし込まれている計画となっている。 ●英語論文作成の支援もワンストップサポートセンターに含まれることが好ましい。 ●屋根瓦方式で卒業した学生が地域に残るための仕組みを作ることにも期待したい。 ●既存の地域住民コーホートやバイオバンク生体試料のデータに関する説明、あるいは文献の提示があると尚良い。	